

学校保健事業における

思春期貧血検査の現状について

○ 桐生理江、鈴木博美、松原美佐子、  
渡辺 伸、鈴木美保子、鈴木 仁

公益財団法人 福島県保健衛生協会

**【はじめに】**

当協会では学校保健事業の一環として、児童、生徒の貧血検査を行っている。今回、中学生、高校生の思春期における貧血検査の現状について若干の検討を行ったので報告する。

**【対象と方法】**

平成21年度から23年度にかけて、当協会では貧血検査を実施した中学生23,062名、高校生14,944名を対象とした。

検査項目は、赤血球数、血色素量、ヘマトクリット値であり、これら測定値を当協会の

貧血検査基準値により「異常なし」、「要注意」、「要精検」の3群に分類した。要精検となった場合は、精密検査対象として医療機関への受診勧奨を行った。

さらに、対象者を男女別に分け、受診者数、要精検率、医療機関による精密検査受診状況について検討を加えた。

### 【結果】

3年間の実施数は中学男子11,740名、中学女子11,322名、高校男子7,097名、高校女子7,847名であり、要注意群の割合は中学男子が1.3%、中学女子が4.1%、高校男子が2.4%、高校女子が4.9%であった。要精検群の割合は中学男子が0.5%、中学女子が1.6%、高校男子が0.9%、高校女子が1.7%であった。精密検査受診率は中学男子が71.4%、中学女子が79.1%、高校男子が85.1%、高校女子が80.0%であった。精密検査のため受診した医療機関での診断結果内訳は、そのほとんどが、鉄欠乏性貧血であり、治療方針としては薬物療法が最も多

く、次いで食事療法、運動療法であった。

### 【考察】

精密検査の結果として鉄欠乏性貧血が多かったのは、思春期では成長が著しく、鉄需要が増すことに起因していると考えられた。また、女子では初潮を向かえていることや、ダイエットなど偏った食生活が要因のひとつになっていると思われた。

### 【まとめ】

学校保健事業における貧血検査は、思春期における鉄欠乏性貧血をスクリーニングするのに有用であり、早期発見により早期に医療機関で治療を受けることは、健康な学校生活を送るためにも重要であると考えられる。今後、精検未受診者への受診勧奨を積極的に行い、要注意とされた貧血予備軍の生徒への指導などについて、学校側と協力して取り組んでいきたい。